

平成27年度 東京都 児童・生徒の学力向上を図るための調査

実施日 : 平成27年7月2日 (木)

対象学年 : 5年生

● 観点別結果分析

<p>読み解く力 都平均 45.7% 44.5%</p>	<p>読み解く力とは、文章や図表等から必要な情報を正確に取り出し、比較・関連付けて読みとり、その意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力である。</p> <p>この調査全体における本校児童の正答率は、47.5%であり、都の平均45.7%を1.8%上回る結果であった。</p> <p>教科別に見ると、国語は4.7%、社会は0.7%、算数は1.0%、理科は0.8%都の平均を上回った。観点別に見ると、取り出す力は5.7%、解決する力は1.3%都の平均を上回ったものの、読み取る力は、1.5%都の平均を下回った。</p> <p>中でも、算数の読み取る力の正答率が4.4%下回った。算数の読み取る力をつけるために、条件から分かることを表にまとめ整理する活動や問題を表や図、式を使っている形で表す活動の充実を図る。</p>
<p>取り出す力 都平均 61.5% 66.7%</p>	<p>取り出す力とは、必要な情報を正確に取り出す力である。</p> <p>取り出す力についての本校の児童の平均正答率は、67.2%で、都の平均正答率を5.7%上回った。教科別にみると、都の平均正答率を国語では17.2%、社会では4.4%、算数では1.7%上回った。しかし、理科では0.6%下回る結果となった。</p> <p>理科の平均正答率が下回った要因として、知識を図やグラフなどと照らし合わせて理解することの不足が考えられる。知識は、言葉だけではなく、事象と合わせて理解させられるように指導をしていく。</p>
<p>読み取る力 都平均 34.5% 33.0%</p>	<p>読み取る力とは、比較・関連付けて読み取る力である。</p> <p>読み取る力についての本校児童の平均正答率は、33.0%で、都の平均正答率を1.5%下回った。教科別にみると、都の平均正答率を理科では2.6%上回った。しかし、国語では1.3%、社会では3%、算数では4.4%下回る結果となった。</p> <p>算数の平均正答率が下回った要因として、二次元表に与えられた条件の正誤を的確に判断してまとめる設問の誤答が多かったことがあげられる。「与えられた条件だけでは、確定できないマスまで記入した」ことによる誤答が目立った。二次元表を与えた場合には、合計から空欄に当てはまる数値を求める活動だけでなく、教師が質問をして考えさせたり、条件を児童自身が考えて当てはめてみたりする活動も取り入れていきたい。</p>
<p>解決する力 都平均 41.0% 44.2%</p>	<p>解決する力とは、意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力である。</p> <p>解決する力についての本校児童の平均正答率は、42.3%で、都の平均正答率を1.3%上回った。教科別にみると、都の平均正答率を社会では0.5%、算数では5.7%、理科では0.6%上回った。しかし、国語では、1.8%下回った。</p> <p>国語の平均正答率が下回った要因として、【資料A】【資料B】を読み、まとめた文を書く時、似ているところや違うところについて、思ったことや考えたことなどを書き加える力が不足していたためと考えられる。文章を読むときや友達の考えを聞くときに、共通点や相違点を意識できるよう、指導の充実を図る。</p>

● 教科別結果分析

<p>国語 学校平均 都平均 66.7 18%</p>	<p>国語における本校児童の平均正答率は、68.8%で、都の平均正答率を1.7%上回った。観点別にみると、都の平均正答率を関心・意欲・態度では、1.9%、話す・聞く能力では0.2%、言語についての知識・理解では5.6%上回った。しかし、書く能力で1.9%、読む能力では2.0%下回った。</p> <p>特に、叙述をもとに場面の様子を正確に読み取る問題においては、都の正答率が60.3%に対して、本校児童の正答率は54.7%と大きく下回っている。文学的文章を読み取る授業においては、「いつ」「どこで」「だれが」「何をしている」などの場面の様子を正確に捉えさせたり、叙述を基にして、登場人物の気持ちを想像させたりする活動を取り入れていく必要がある。</p>
<p>社会 学校平均 都平均 65.0 18%</p>	<p>社会における本校児童の平均正答率は57.8%で、都の平均を2.3%下回っている。観点別にみると、都の平均正答率を技能は0.7%上回っているものの、関心・意欲・態度で、15.8%、思考・判断・表現は1.5%、知識・理解は0.9%下回った。</p> <p>特に課題と言えるのは、学習を振り返って、自分たちの生活との関わりを考える問題が、都の正答率の平均が89.1%に対して、本校の児童の正答率の平均は73.3%と、大きく下回ったことである。学習の際に、日常生活と関連付けて考えさせることや、学習したことを今後の自分の生活に取り入れていけるようにすることが必要である。</p>
<p>算数 学校平均 都平均 66.7 97%</p>	<p>算数の問題における本校児童の平均正答率は65.7%で、都の平均を2.2%下回っている。</p> <p>観点別にみると、都の平均正答率を関心・意欲・態度で17.4%、数学的な考え方で2.1%、技能で2.9%、知識・理解で0.3%下回った。</p> <p>一番、課題となるのは、関心・意欲・態度が大きく下回ったことである。約20%近くも都の平均より低いということは、算数への苦手意識を持ち、自信のない児童が多くいるといえる。習熟度別授業を充実させ、学習意欲を高めていく。例題問題などの基礎基本の徹底理解を図ると同時に、導入時においては興味・関心をもてるように工夫していく。児童一人ひとりの理解度を把握し、簡単な問題でも解決できたことを認め、褒めていくことを通して、関心・意欲付けをしていく。</p>
<p>理科 学校平均 都平均 76.0 49%</p>	<p>理科における本校児童の平均正答率は、69.9%で、都の平均正答率を0.5%下回った。観点別にみると、思考・判断・表現では1.6%上回ったものの、関心・意欲・態度で、0.4%、技能では1.7%、知識・理解で1.9%都の平均正答率を下回った。</p> <p>技能に関しては、実験用具の使い方が中心となっている。正答率が低い要因としては、使い方に対する理解が曖昧になっていることが考えられる。児童が実際に器具を扱い、実験を進められるように、学校としての設備も整えていく必要がある。</p> <p>知識・理解に関しては、学習したことが日常生活と関連付けられていないことが正答率の低い要因として考えられる。言葉のみではなく、日常生活の事象と照らし合わせて考えさせ、理解を図ることが必要である。</p>